



## 広島流川教会 130周年記念と平和への祈り

神田 健次

### ◆ 創立 130 周年記念

昨年の秋、学院の創立者、米国南メソヂスト監督教会の W. R.ランバス宣教師【右】が、中国から来日して、神戸を中心に宣教活動を着手して以降、130周年を迎えました。その記念式典が、最初に創立された神戸栄光教会において催され、また学院においてもさまざまな機会に記念行事が開催されました。そして今年の5月、神戸栄光教会に次いで創設された、同窓の向井希夫牧師が牧会する広島流川教会の創立130周年記念が催され、その記念礼拝メッセージと講演を依頼されて伺ってきました【左】。



広島流川教会(創立当時の名称:広島美以教会)は、1887年5月8日に、砂本貞吉氏が中心となり W. R. ランバス先生の協力によって創設されました。教会の創設当時は、ランバス先生の「瀬戸内宣教構想」において、神戸と共に広島は地政学的にも重要な拠点であり、神戸巡回区、そして広島巡回区(山陽道、四国、九州)が中心的役割を果たしてきました。教会創立時のメンバーは、砂本氏を含めて14名(当日、J. W. ランバス先生より12名受洗)でした。その一人が、後に本学神学部へ献身し、また米国の諸大学にも留学して、帰国と同時に関西学院神学部教授に就任した松本益吉氏【左】です。優れた新約学者であり、学院の副院長という要職も



歴任し、また再興後の同窓会初代会長として活躍して、国際親善にも尽力されました。

さらに、創立同年に受洗された方々の中に、3名神学部へ献身した方がおられます。その中で、田中義弘氏【右】と中山栄之助氏は、実に最初の関西学院卒業生3名の内の2名にあたります。田中氏は、卒業後、南美以神戸教会最初の日本人牧師に就任しています。その後、広島女学院牧師兼教師を歴任後、本学神学校教授ならびに礼拝主事に就任、さらに中学部長として関西学院に貢献されました。他方中山氏は、学院創立直後に組織された関西学院青年会の初代会長に選出され、卒業後は四国で伝道に従事していましたが、26歳の若さで病没されました。



もう一人の三戸吉太郎氏は、広島市出身で、砂本貞吉氏の影響もあり創立年のクリスマスに W. R. ランバス先生より洗礼を受けています。その後、本学神学部へ献身され、日本メソヂスト教会の多くの諸教会を歴任し、1918年には原田の森の学院構内に建設されたハミル館で「ハミル日曜学校教師養成所」を設立しました。さらに、日曜学校事業のさらなる充実発展に尽くし、日本メソヂスト教会日曜学校局局長に就任しています。また教派を越えて日本の教会全体の日曜学校運動を推進し、日本日曜学校協会理事などの要職も歴任し、大きな足跡を残されました。

130年前、教会創立のその年に、ランバス(父子)先生と砂本氏の働きの中から、多くの受洗者が与えられ、しかもその中から4名もの献身者が関西学院神学部へ献身され、伝道者としての大きな働きを担われたことを改めて心に刻む思いです。これまで、大分教会との関係で初期の関学神学部へ献身者が多かったことから、「大分バンド」という呼び方がありますが、大分にも劣らない献身者を輩出したことを思えば、「広島バンド」と呼ぶことも可能ではないでしょうか。

### ◆ 被爆経験と平和への祈り

広島流川教会は、1945年8月6日に広島に原爆が投下された際、被爆した教会であり、その後広島での平和運動を推進してきた教会として著名な教会です。特に、戦後の平和運動の重要な存在として、本学神学部卒業の牧師谷本清氏があげられます。谷本氏は、被爆経験の中から、1950年「ピース・センター」を設立し、原爆孤児の精神養子運動や被爆した女性たちの渡米治療などの活動を通して反核・平和運動を一貫して担われ、多大な貢献を果たされました。



原子爆弾によって崩壊した旧会堂

当時は、現電停「胡町」すじ向いにあった。被爆後、焼け残った外枠壁を用いて再建されたが、原爆放射熱で鈍くなった壁が崩れやすく修理困難のため、保存を断念した。

**FORMER CHURCH DESTROYED BY THE ATOMIC BOMB**

The church was located across the street from the present Ebisucho street-car stop. The explosion of the atomic bomb left only the wall framework of part of the building. This was reinforced and preserved, and the church was reconstructed. However, it became impossible to maintain the building because the radiated framework foundation was too weak.



1995年の被爆50年を記念して、平和への祈りを込めて、礼拝堂に被爆の十字架【冒頭の壁面上部】と鐘【右】をかかげていますが、教会のホームページでは次のように記載されています。

礼拝堂の前にかかげられている黒焦げの十字架は、「被爆十字架」と呼ばれているものです。1945年の被爆によってほぼ炭化した木材で作られました。1995年、被爆50年を記念して前会堂正面にかかげられ、現会堂でも被爆を語り継ぎ、平和を証し続ける大切な十字架としてかかげられています。



礼拝堂後部に設置されている鐘には、「昭和五年拾壱月吉日寄付」と書かれています。「昭和一八年」の週報には、「◆金属回収運動に協力させよう◆御覧の通り当教会は供出する凡ての金属を供出致しました。当分不自由でもあり、見たところも見苦しいものがあります。しかし栄光の日を迎ゆるまで一切のことを忍びませう。」と書かれている中で、残ったものです。戦争の実態と教会も戦争協力していった姿を忘れず、平和を創り出すためのしるしとして、1995年、被爆50年の年に「被爆十字架」と共に前会堂に架設されました。平和聖日合同礼拝のときに平和を祈念してこの鐘をつきます。



教会創立130周年の記念行事の一環として、もう一つ特筆すべきことは、46年ぶりに「被爆定礎板」【左】を、教会の正面入り口の壁面に設置し、被爆の記憶を風化させないための記念碑として、平和への祈りをこめて、往来する人々にも呼びかけられました。被爆定礎板は、縦38センチ、横62センチの御影石製であり、そこには、「AD1927 昭和二年」と着工年が刻まれています。ただ、被爆のために二つに割れ、「二年」の部分は剥離しています。この定礎板に刻まれているように、被爆した教会堂は1927年に着工して、翌年の28年に完成した会堂であり、原爆でほぼ崩壊しましたが、定礎板を含む外壁の一部が残りました。これらを基に戦後の52年に再建し、定礎板も設置していましたが、71年に現在地へ新築移転した際に取り外し、木箱に納めて倉庫に保管していたものが、今回新たに設置された次第です。

今年のノーベル平和賞は核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)が受賞しましたが、その中でとりわけ中心的な貢献をされたのは、カナダ在住の被爆者、サーロー節子さんです。サーローさんは、実は広島流川教会で洗礼を受けられ、広島女学院の生徒の時、被爆しておられます。サーローさんのパートナーは、かつて学院中学部のサーロー宣教師であり、カナダへ帰国後も核廃絶を訴え続けてこられました。サーローさんは、12月10日のオスロでの授賞式に国内在住の被爆者2人と出席され、フィン事務局長と共に演説をされる予定です。

【学院史編纂室顧問】

**第49回 関西学院史研究会** (申し込み不要・一般参加歓迎)

日時： 12月5日(火) 13:30~15:00

場所： 大学図書館ホール(西宮上ケ原キャンパス)

講師： 金成妍 キム・ソンヨン(久留島武彦記念館館長)

演題： 「久留島武彦と関西学院」